

2012年5月期
決算説明会

(証券コード：7713)

シグマ光機株式会社

2012年7月12日(木)
東海東京証券株式会社 ホールA・B

- 1. 2012年5月期 通期決算概要**
経理部副部長 石井 康之
2. 2013年5月期 通期見通し
取締役経営企画室長 山口 秀一
3. 2013年5月期 成長戦略
代表取締役社長 森 玲二
4. 質疑応答

1. 2012年5月期決算概要（連結）

（単位：百万円未満切捨）

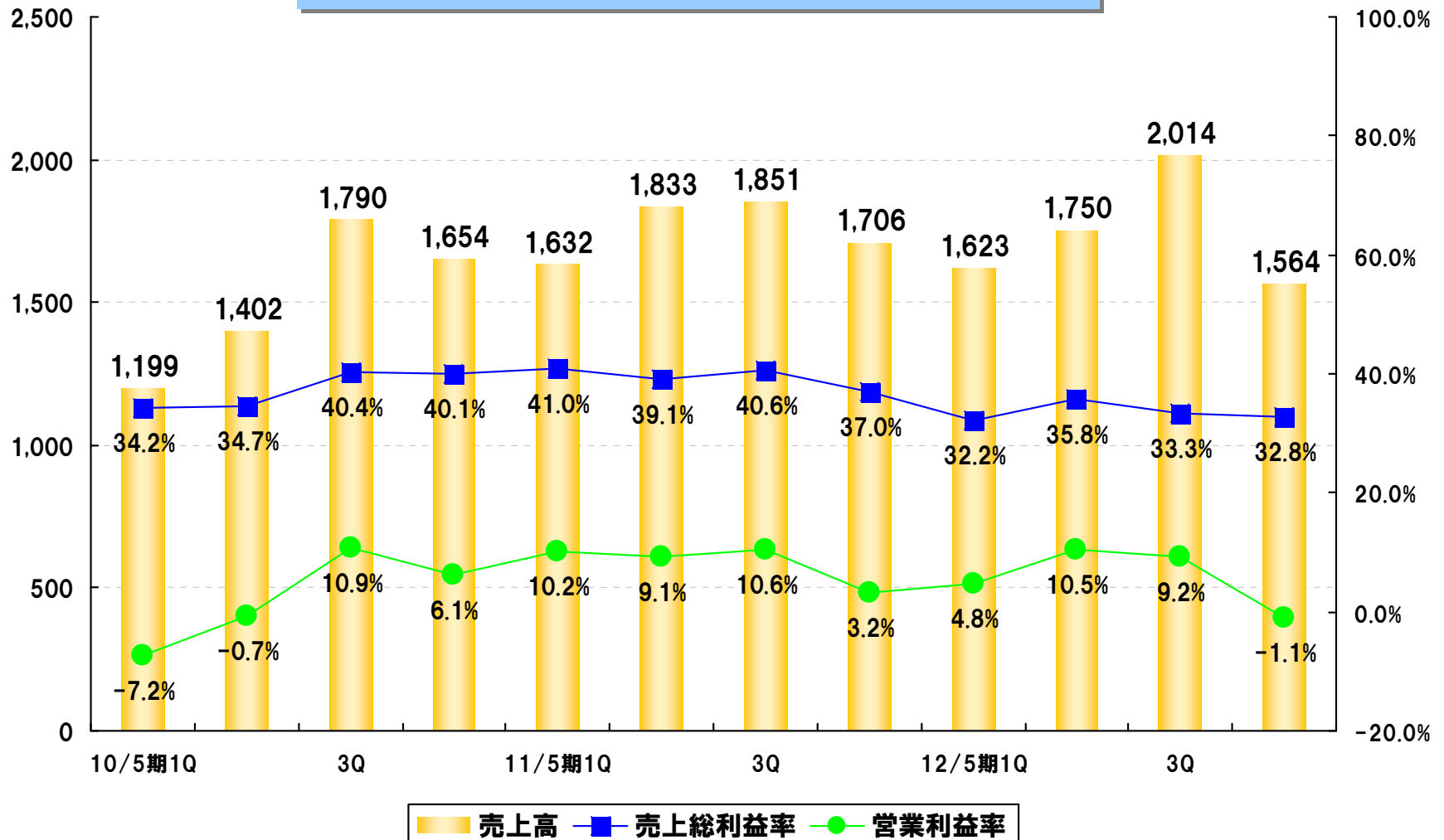
	2011/5期		2012/5期			
	通期実績	構成比	期初予想 (注)	通期実績	構成比	前期比 増減率
売上高	7,024	100.0 %	7,350	6,952	100.0 %	-1.0 %
営業利益	582	8.3 %	480	428	6.2 %	-26.5 %
経常利益	732	10.4 %	620	563	8.1 %	-23.1 %
当期純利益	330	4.3 %	360	273	3.9 %	-17.1 %
1株当り当期純利益(円)	44円38銭	—	48円33銭	36円47銭	—	—

- ◎ 売上高は、民間・官公庁向け研究開発分野の予算執行時期の遅延・見直しや産業分野の新規設備投資低迷の影響を受け、前年同期比で若干ながら減収。
特に産業分野においては、バイオ業界・通信業界向けの光学要素部品・光学ユニット製品は一部堅調に推移も、国内輸出企業を中心とした新規設備投資の抑制やアジア各国における生産活動の鈍化傾向の影響で、半導体業界、FPD、エネルギー業界向けの光学要素部品の需要が減少傾向。
- ◎ 営業利益、経常利益及び当期純利益は、前年同期比で大幅な減益。全般的なコスト削減の推進、及び試験研究費や広告宣伝費の予算執行時期の見直し等の経費削減を推進も、昨夏の節電対応に起因する人件費増や商品ミックスの変化に伴う利益率の低下により、期初予想も未達成。

（注）期初予想は2011年7月8日付発表の数字。

（単位:百万円未満切捨）

四半期実績 (2010/1Q~2012/4Q)





売上高

(単位:百万円未満切捨)

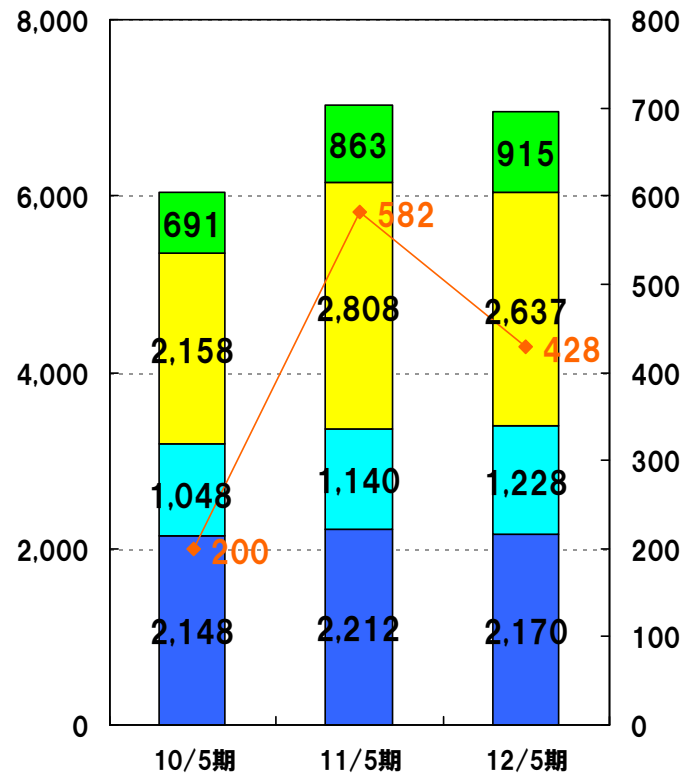
製品区分	10/5期	11/5期	12/5期	構成比率	対前年同期増減率
要素部品事業	5,355	6,161	6,036	86.8%	-2.0%
光学基本機器製品	2,148	2,212	2,170	31.2%	-1.9%
自動応用製品	1,048	1,140	1,228	17.7%	7.7%
光学素子・薄膜製品	2,158	2,808	2,637	37.9%	-6.1%
システム製品事業	691	863	915	13.2%	6.1%
光学システム製品	691	863	915	13.2%	6.1%
合計	6,046	7,024	6,952	100%	-1.0%

(単位:百万円未満切捨)

(単位:百万円未満切捨)

売上高

営業利益



■ 光学基本機器製品 ■ 自動応用製品
■ 光学素子・薄膜製品 ■ 光学システム製品
◆ 営業利益

営業損益

(単位:百万円未満切捨)

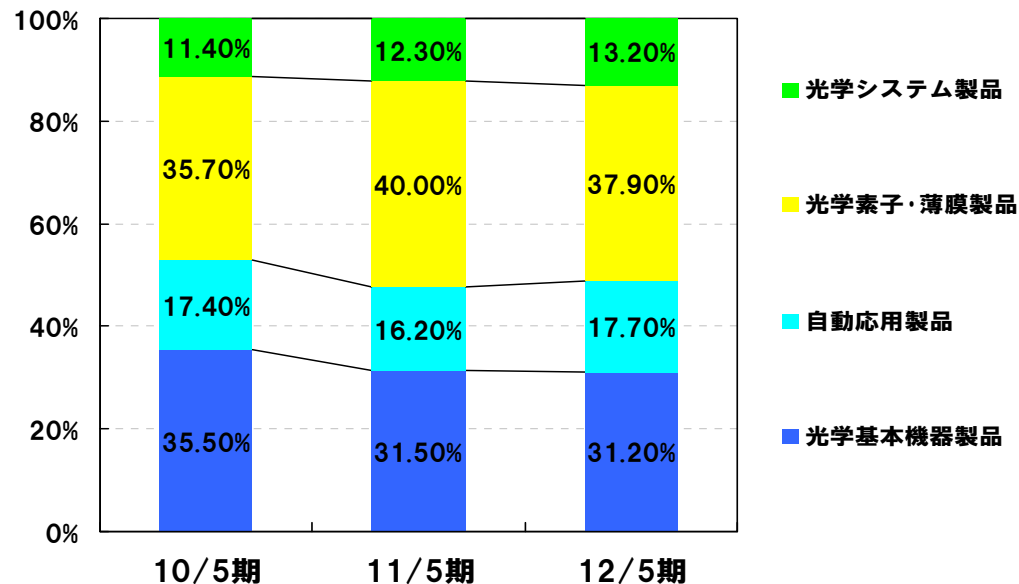
製品区分	10/5期	11/5期	12/5期	増減率
要素部品事業	751	1,241	1,077	-13.2%
システム製品事業	-105	-185	-204	-
消去	(-445)	(-473)	(-444)	-
合計	200	582	428	-26.5%

セグメント別売上高構成比推移（連結）

（単位:百万円未満切捨）

製品区分	2010/5期		2011/5期		2012/5期	
	通期	構成比	通期	構成比	通期	構成比
光学基本機器製品	2,148	35.5 %	2,212	31.5 %	2,170	31.2 %
自動応用製品	1,048	17.4 %	1,140	16.2 %	1,228	17.7 %
光学素子・薄膜製品	2,158	35.7 %	2,808	40.0 %	2,637	37.9 %
光学システム製品	691	11.4 %	863	12.3 %	915	13.2 %
合計	6,046	100.0 %	7,024	100.0 %	6,952	100.0 %

（単位:%）



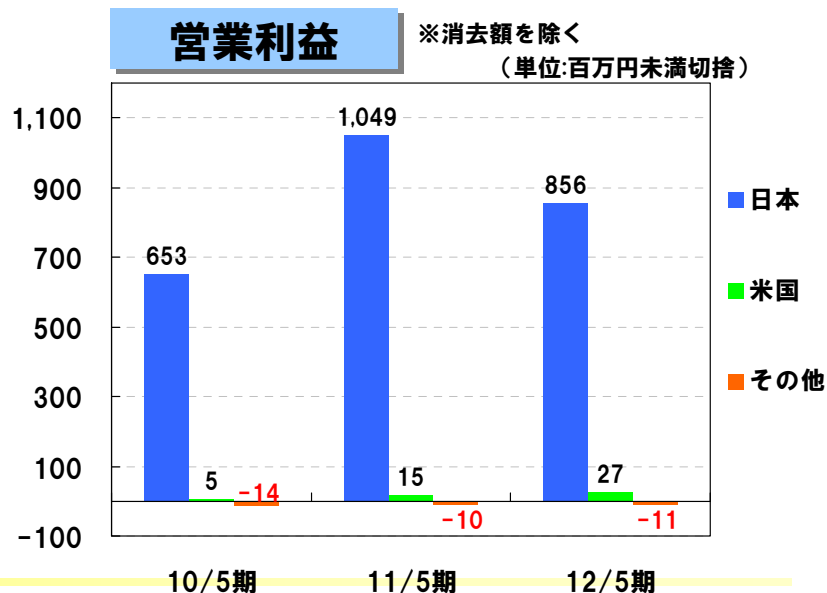
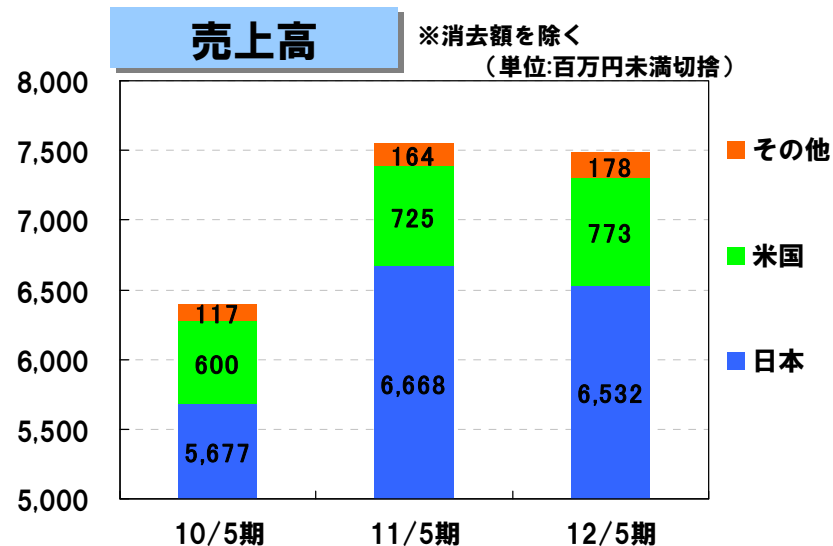
（単位:百万円未満切捨）

	2011/5期		2012/5期		
	通期実績	構成比	通期実績	構成比	増減率
売上高	7,024	100.0%	6,952	100.0%	-1.0%
海外売上高	1,579	22.5%	1,473	21.2%	-6.7%
北米	551	7.8%	601	8.7%	9.1%
アジア・オセアニア	905	12.9%	748	10.8%	-17.4%
ヨーロッパ	110	1.6%	105	1.5%	-4.4%
その他	12	0.2%	18	0.2%	50.4%

- ◎ 半導体業界、FPD業界、光通信業界に加えて、バイオ、コスメ、メディカル業界に対する光学素子製品及び光学基本機器製品をはじめとした要素部品事業が主軸。
- ◎ 欧州財政問題の影響や、不動産バブルが終焉した中国経済をはじめとするアジア諸国の経済成長鈍化によって、欧州地域や昨年好調であったアジア・オセアニア地域での売上減少。但し、北米地域では、東海岸ランチ開設等による販売・サポート強化が奏功し売上増加。

(単位:百万円未満切捨)

		日本	米国	その他	消去 又は 全社	計
2010/5 累計	売上高	5,677	600	117	- 349	6,046
	営業利益	653	5	- 14	- 445	200
2011/5 累計	売上高	6,668	725	164	- 534	7,024
	営業利益	1,049	15	- 10	- 473	582
2012/5 累計	売上高	6,532	773	178	- 532	6,952
	営業利益	856	27	- 11	- 444	428





(単位:百万円未満切捨)

	2011/5期		2012/5期		
	通期実績	構成比	通期実績	構成比	増減率
売上高	7,024	100.0%	6,952	100.0%	-1.0%
材料費等	2,452	34.9%	2,505	36.0%	2.2%
労務費	1,253	17.8%	1,486	21.4%	18.6%
減価償却費	271	3.9%	314	4.5%	16.1%
その他	278	4.0%	310	4.5%	11.7%
売上原価	4,255	60.6%	4,617	66.4%	8.5%
売上総利益	2,768	39.4%	2,334	33.6%	-15.7%

◎材料費等は増加しているが、外部から調達する材料仕入は減少。

◎労務費の増加は、本年度から生産支援業務に係る人件費を労務費に付け替えたこと、並びに昨夏の電力使用制限の影響による生産体制の夜間シフト等による増加が主要因。

◎2007/5期からの積極的な設備投資による高水準の減価償却費が継続。

◎その他の増加は、内製化の推進により外注加工費は減少したが、生産改革に伴って本年度から販売管理費の一部を売上原価へ付け替えたことにより増加。

(単位:百万円未満切捨)

	2011/5期		2012/5期		
	通期実績	構成比	通期実績	構成比	増減率
売上高	7,024	100.0 %	6,952	100.0 %	-1.0 %
販売促進費	100	1.4 %	210	3.0 %	110.1 %
広告宣伝費	69	1.0 %	75	1.1 %	9.2 %
人件費	1,148	16.4 %	842	12.1 %	-26.6 %
減価償却費	89	1.3 %	55	0.8 %	-37.5 %
試験研究費	109	1.6 %	267	3.9 %	144.7 %
その他	668	9.5 %	453	6.5 %	-32.2 %
販売管理費	2,186	31.1 %	1,906	27.4 %	-12.8 %

◎生産支援業務に係る人件費などの経費の売上原価への付け替え、及び経費予算の執行時期の見直し等の経費コントロールによって、販売管理費全体では前年同期比で減少。

◎販売促進費は、営業支援業務に係る労務費などの、販売管理費への付け替えによって大幅に増加。

◎試験研究費や販売促進費については、前年同期比で大幅に増加。

（単位:百万円未満切捨）

	2010/5期	2011/5期	2012/5期	増減 (対前期末比)	備考
現金・預金	2,297	2,313	2,471	6.8 %	
受取手形・売掛金	1,948	2,057	1,874	-8.9 %	
棚卸資産	1,361	1,716	1,819	6.0 %	
その他流動資産	492	367	448	22.2%	譲渡性預金
有形・無形固定資産	3,550	3,501	3,311	-5.4 %	
投資等	3,169	3,129	3,065	-2.1 %	
資産合計	12,820	13,086	12,991	-0.7 %	
支払手形・買掛金	819	918	801	-12.7 %	
短期借入金	179	136	129	-5.7 %	
その他流動負債	430	613	506	-17.4%	未払法人税
長期借入金	97	81	119	46.9 %	
その他固定負債	545	603	598	-0.9 %	
純資産合計	10,748	10,733	10,837	1.0 %	配当金支払、自己株式処分、 為替換算調整
負債・純資産合計	12,820	13,086	12,991	-0.7 %	

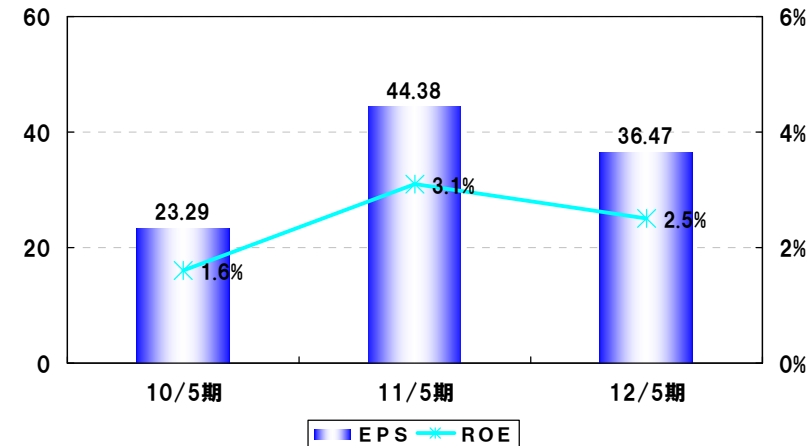
（単位:百万円未満切捨）

	2010/5期	2011/5期	2012/5期	備考
営業活動	1,149	546	682	売上債権の減少（回収）による増加。 法人税の支払、仕入れ債務の減少（支払）及び 棚卸資産の増加による減少。
投資活動	-37	-364	-250	有形無形固定資産の取得による減少。
フリーキャッシュフロー	1,111	181	431	
財務活動	-374	-281	-147	借入金の調達及び自己株式の処分による増加。 配当金支払、長期借入金返済による減少。
現金及び 現金同等物の期末残高	2,000	1,865	2,155	

連結EPS・ROE

	10/5期	11/5期	2012/5期
当期純利益（百万円）	173	330	273
1株当たり 当期純利益（円）(EPS)	23.29	44.38	36.47
自己資本 当期純利益率（%）(ROE)	1.6	3.1	2.5

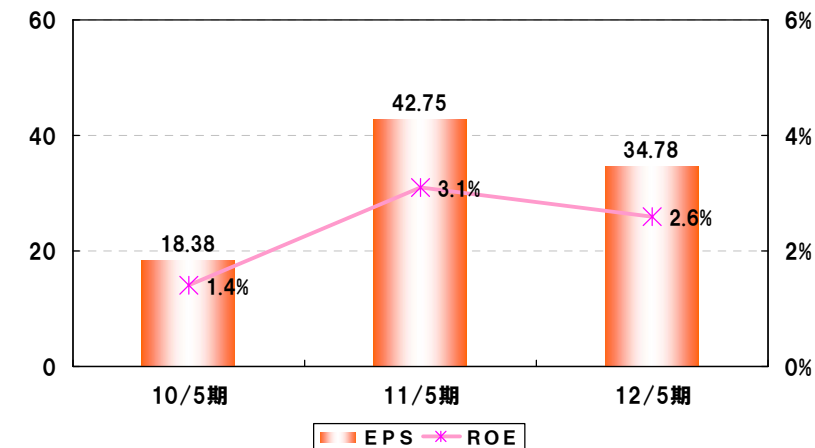
（単位：円）



単体EPS・ROE

	10/5期	11/5期	2012/5期
当期純利益（百万円）	136	318	261
1株当たり 当期純利益（円）(EPS)	18.38	42.75	34.78
自己資本 当期純利益率（%）(ROE)	1.4	3.1	2.6

（単位：円）



1. 2012年5月期 通期決算概要
経理部副部長 石井 康之
2. 2013年5月期 通期見通し
取締役経営企画室長 山口 秀一
3. 2013年5月期 成長戦略
代表取締役社長 森 玲二
4. 質疑応答

2. 2013年5月期通期計画（連結）

（単位:百万円未満切捨）

	2012/5期 実績	2013/5期			通期増減（対前期比）	
		上期実績	下期予算	通期予算	金額	増減率
売上高	6,952	3,350	3,870	7,220	267	3.9 %
営業利益	428	135	405	540	111	26.1%
営業利益率	6.2 %	4.0 %	10.5 %	7.5 %	—	—
経常利益	563	165	440	605	41	7.4 %
当期純利益	273	85	225	310	36	13.2%
1株当り純利益(円)	36円47銭	11円28銭	—	41円15銭	—	—

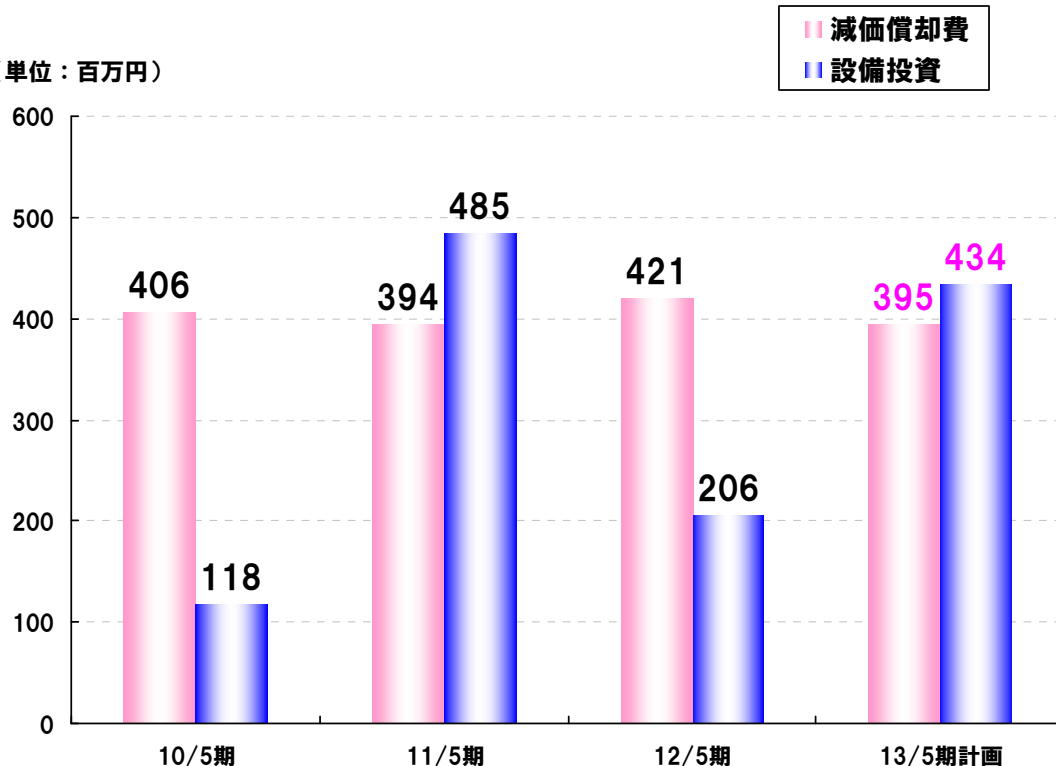
（本予想は、為替レート1米ドル=78円、1人民元=12円を前提としております。）

◎為替や景気の先行きについて不透明な状況であり、慎重な通期計画ではあるが、継続的な経費コントロールと13/5期下半期の景気回復基調を勘案して増収増益を見込む。

◎生産能力と技術レベルの向上を図るため、継続して設備投資と研究開発を実施予定。

設備投資・減価償却費

（単位：百万円）



補足説明

◎主要設備投資

○10/5期

- ・真空蒸着装置更新 0.3億円
- ・情報システム投資 0.2億円

○11/5期

- ・光学素子製品高度化投資 1.0億円
- ・オプトシグマ新社屋
移転改修工事 1.9億円

○12/5期

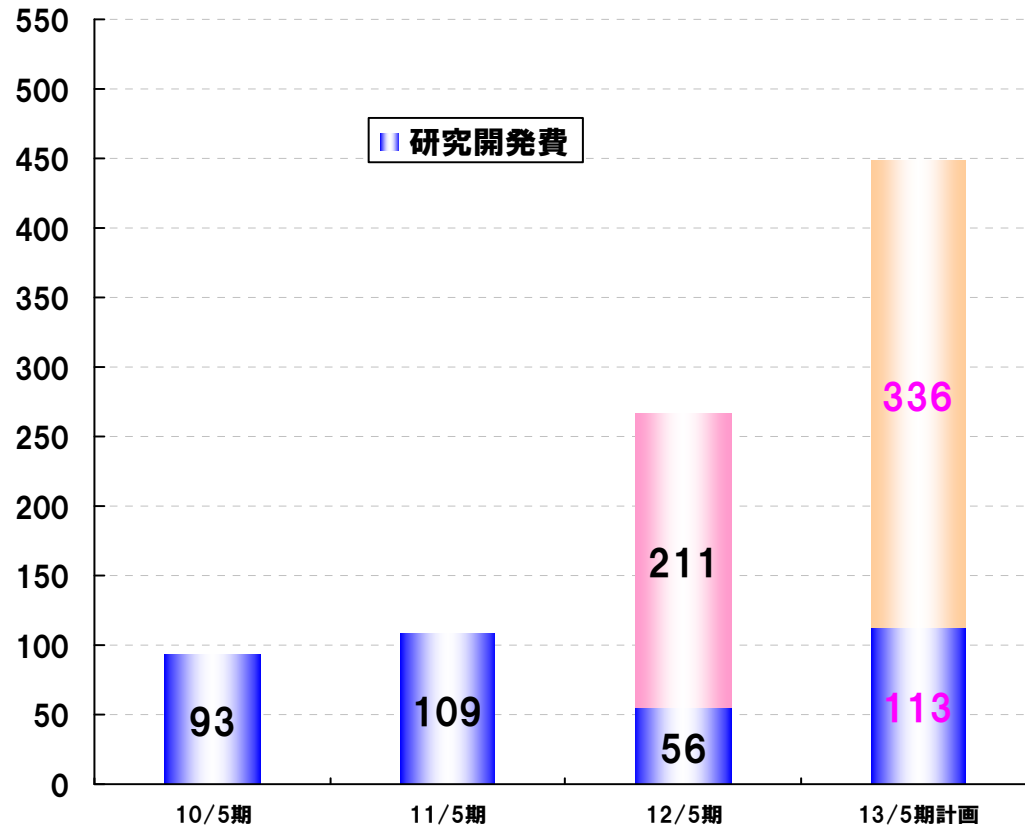
- ・情報システム投資 0.7億円
- ・拠点建屋改修工事費 0.4億円
- ・光学素子設備増強投資 0.3億円

○13/5期

- ・情報システム投資 1.3億円
- ・基本機器設備増強投資 1.0億円
- ・光学素子製品高度化投資 0.9億円

研究開発費

（単位：百万円未満切捨）



補足説明

（単位：百万円未満切捨）

	自社	産学官連携
10/5期	57	36
11/5期	77	32
12/5期	47	9
13/5期計画	113	-

	人件費等	人件費込 売上高比率
12/5期	211	3.9%
13/5期計画	336	6.2%

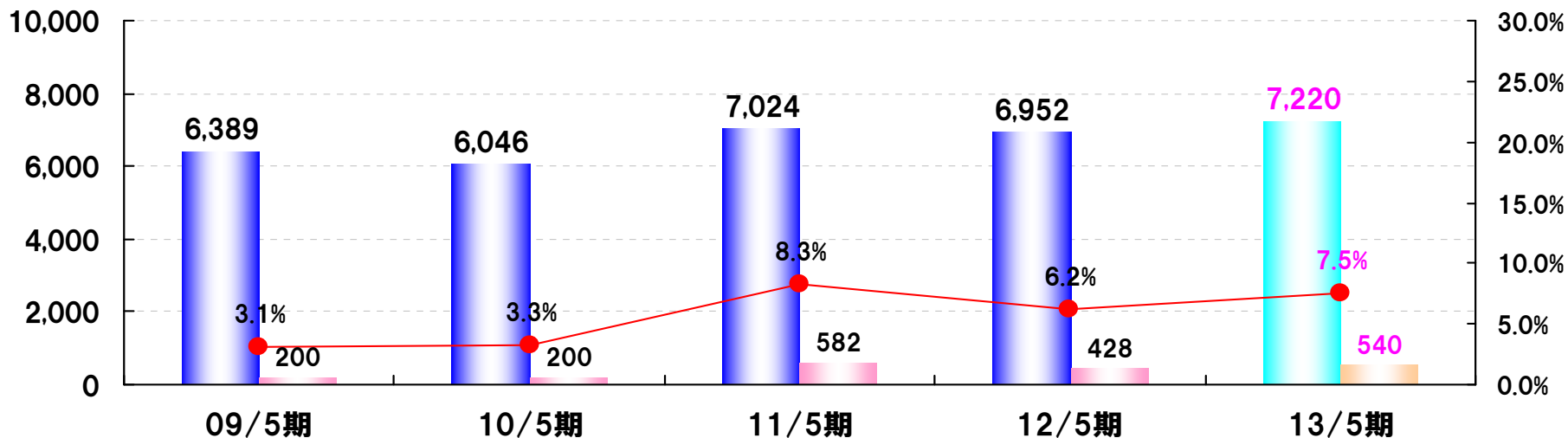
※12/5期より、生産部門の人件費のうち研究開発に充当した工数を研究開発費に付け替えております。

（注）11/5期までの研究開発費には、人件費を含んでおりません。



（単位:百万円未満切捨）

■ 売上高 ■ 営業利益 ● 営業利益率

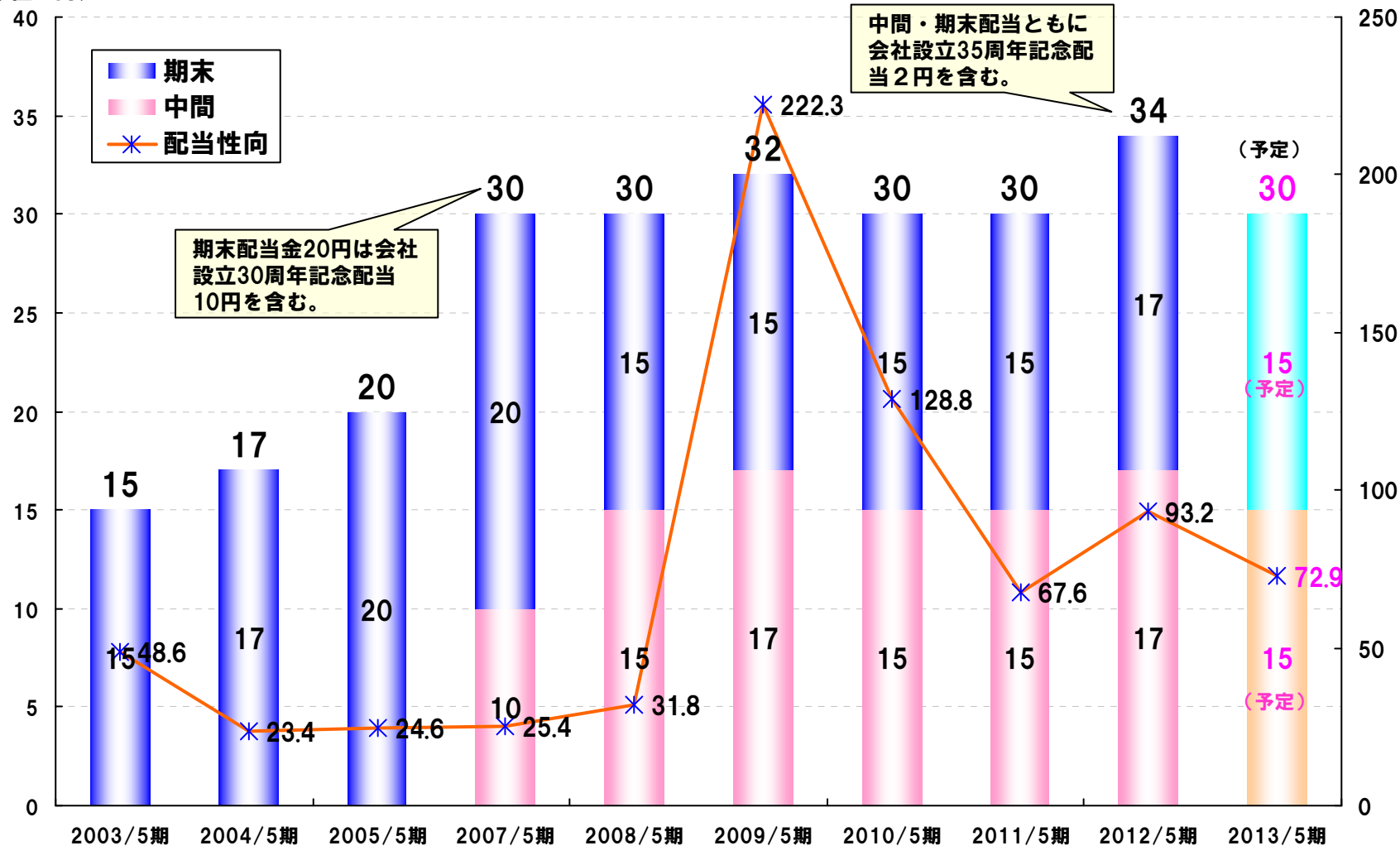


＊強固な財務体質を堅持

- ①自己資本比率 FY09: 86.1% → FY12: 83.2%
- ②利益剰余金 FY09: 5,427百万円 → FY12: 5,518百万円
- ③純有利子負債 FY09: ▲1,092百万円 → FY12: ▲2,223百万円

継続的・安定的な配当の実行

(単位：円)



1. 2012年5月期 通期決算概要
経理部副部長 石井 康之
2. 2013年5月期 通期見通し
取締役経営企画室長 山口 秀一
3. 2013年5月期 成長戦略
代表取締役社長 森 吟二
4. 質疑応答

1. 通販競合業界事情

- 通販業界トップ5
- 米国勢の台頭
- アジア市場争奪戦

2. 成長戦略

- 対処すべき課題
- 経営方針
- 海外展開

※当社調べ

社名	世界売上順位	本社	備考
Newport	1位	米国	オールラウンド
CVI-MG	2位	米国	光学薄膜、レンズユニット
Thorlabs	3位	米国	ホルダー、光通信機器
Edmund Op.	4位	米国	光学素子、レンズユニット
シグマ光機	5位	日本	オールラウンド

＊Newport は NASDAQ上場

＊欧州優良企業を米系4社が M&A ！

＊オールラウンドとは光学装置対応全製品を完備

- **アジア市場の伸張**

日本市場／アジア市場への進出

- **グローバル展開力**

ブランド、マーケティング、製品開発
有利な共通言語＝英語、
アジア発米国留学生の活用

- **米国勢製品力**

超円高による価格割安感
優れた機能、デザイン

〈アジア市場の特徴〉

- **これからの R&D マーケット**

有利な米国勢 ⇒ 米国への留学生多数

- **大きな産業用マーケット**

世界の工場 ⇒ 調達センター機能

- **精度より価格**

**二極化製品 ⇒ 『好精度・好価格』
コスト競争力必須**



• 収益力の向上

- 既存製品ブラッシュアップと新規製品ラインナップ
- 『お客様の欲しいを形に』したソリューション提案
- 国内外での調達・購買力の強化によるコスト削減

• ものづくり力の強化

- 「生産改革」の推進による効率的な生産システム
- 中核技術・生産技術のブラッシュアップ

• グローバルマーケットへの展開

- 世界3大マーケットでのブランド認知度の向上
- 拠点開設や代理店網の整備での世界3大市場への展開

〈経営方針〉

☆要素技術 をベースに

カタログ製品 と OEM製品

☆パーツ、ユニット をベースに

光ソリューション

☆内を固めつつ、外へ

(グローバル展開)

☆要素技術 をベースに

カタログ製品 と OEM製品

・カタログ製品

R & D分野：プレミアムゾーン対応

二極化要求 ⇒ 高付加価値/コストダウン

要素技術の高度化 ⇒ 光学技術と制御技術

・OEM製品

産業分野：ボリュームゾーン対応

組込用要素部品 ⇒ 高出力化・自動化・省力化対応

生産技術/調達網 ⇒ コスト削減必須



本社・日高工場



技術センター



能登工場



上海シグマ光機

☆パーツ、ユニットをベースに光ソリューション

“脱”単品値引き競争 ⇒ 丸ごと一括受注で付加価値

・ソリューション力強化 ⇒ 人財の採用・養成

成長市場・注力分野への集中投資（人財・設備）

－成長市場：半導体、FPD、LED関連、エコ・エネルギー、光通信、医療、バイオ、ケミカル、コスメ、防衛、宇宙 等

－注力分野：観察光学系、レーザ加工系、デバイス・アッセ系、バイオ系、光学測定器系

・営業と技術のコラボ ⇒ 連携体制強化

「お客様の欲しいを形に」

「お客様満足度」業界世界一

☆内を固めつつ、外へ（グローバル展開）

- ・製品ポートフォリオの見直し

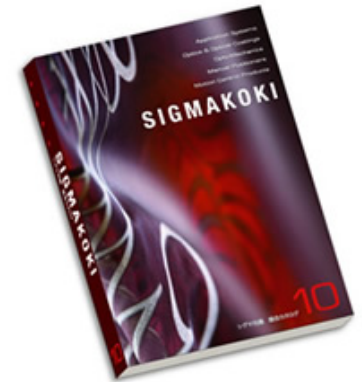
競合他社対応製品 ⇒ ブラッシュアップ

- ・営業ツールの強化

カタログ, WEBの整備 ⇒ ラインナップ拡充

- ・企業ブランドの浸透

海外展示会 ⇒ ブランド認知度の向上



カタログ10
(2012年5月刊行)



東京本社



大阪支店



九州営業所



オプトシグマ

世界3大マーケット(米国・アジア・EU)での ブランド認知度向上とグローバルビジネス強化

Photonics West 2012 サンフランシスコ
(2012年1月24日~26日)



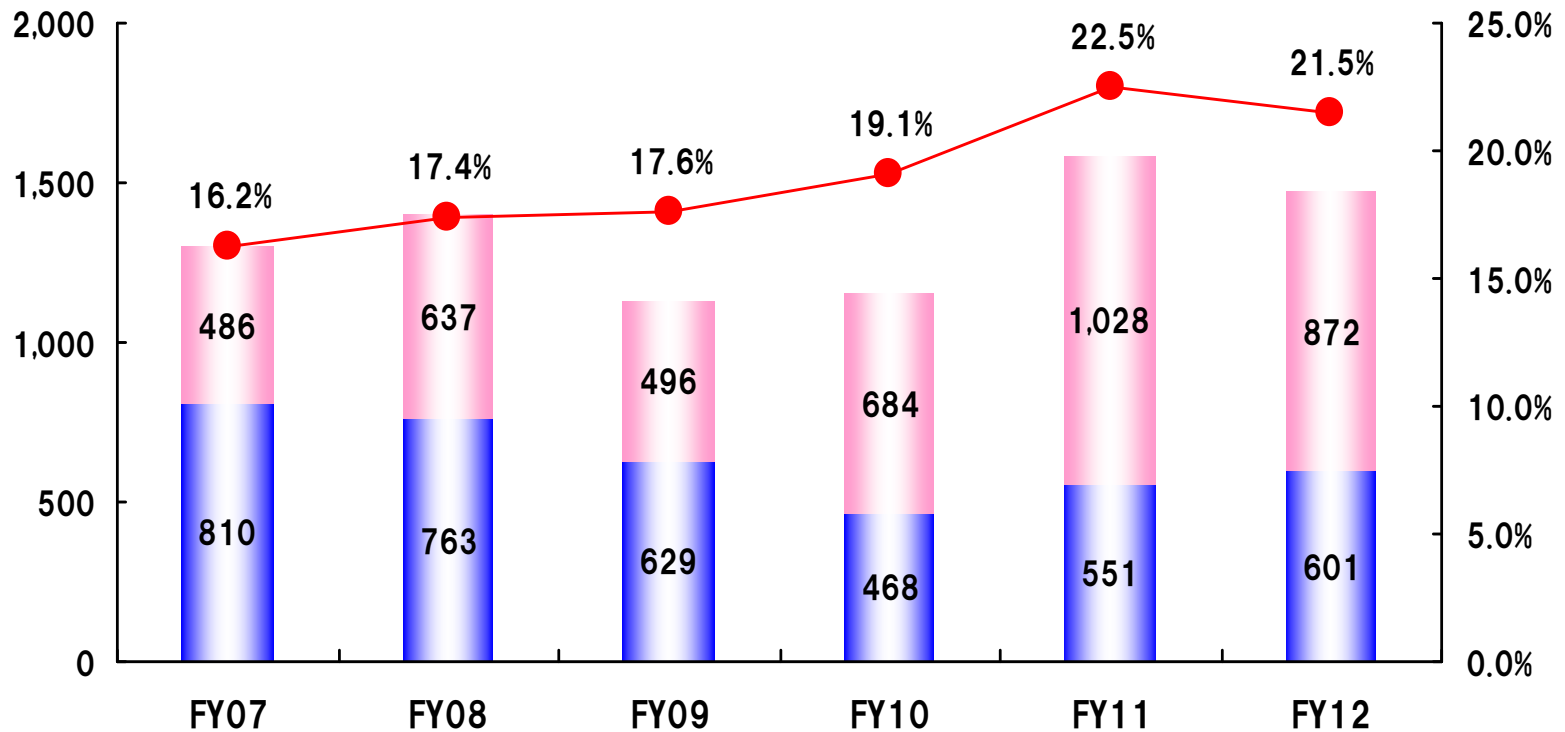
LASER World of PHOTONICS China 2012
(2012年3月20日~22日) 上海



2.成長戦略－海外売上高推移

(単位:百万円)

■ 北米 ■ その他の地域 ● 海外売上高比率



海外売上高	1,296	1,400	1,125	1,153	1,579	1,473
全社売上高	8,015	8,055	6,389	6,046	7,024	6,952

(単位:百万円)

☆オプトシグマ

増資：10万ドル⇒260万ドル

拠点：東海岸フロリダ州に営業拠点を新設

設備：コーティング設備を活用した提案営業



オプトシグマ（米国、CA）

☆米国圏・EU圏マーケット

	米国圏 (米国・カナダ・中米)	EU圏 (独・仏・英・北欧)
R & D分野	少ない	多い
産業分野	多い	少ない
地の利	あり	なし

1. 2012年5月期 通期決算概要
経理部副部長 石井 康之
2. 2013年5月期 通期見通し
取締役経営企画室長 山口 秀一
3. 2013年5月期 成長戦略
代表取締役社長 森 吟二
4. 質疑応答

ご清聴ありがとうございました。

本説明会にて提供させていただいた情報および本資料内に記載されている当社グループに関する業績予想、方針、経営戦略、目標等に関しては、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。

よって、今後様々な要因により将来の見通しに関する記載事項や予想数値等が変化することが考えられます。すなわちこれら記載事項や予想数値等はその性質上、将来そのとおりに実現するという保証はいたしかねますのでご留意ください。